

通算第21号

1964~65-10-28

函館北ロータリークラブ

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

第19回例会

司会 新会長 齊唱 "我等の生業"

ビジター 相馬哲平君 他10名(函館R.C.)

石畑常四郎君 他5名(函館東R.C.)

会長挨拶

1. R.I.からの認証が去る19日付で発せられました。
2. 去る23日、高岡寮(精薄児収容施設)の開所式に船矢幹事、24日協会病院の増新築披露式に遠藤副会長、25日函館R.C.創立30周年のお祝に私が、夫々出席して来ました。

幹事報告

1. 例会日の変更 函館東R.C.11月3日は休み。帯広R.C.11月11日は12日に。帯広北R.C.11月13日は10日に夫々変更。
2. 例会終了後新入会員の件につき理事会を開きます。

ニコニコ箱

1. 麻雀大会入賞おめでとございます。
1位 成沢会員 2位 大田会員 3位 塚田会員
プラスに感激 遠藤副会長
2. 11月23日東北北海道国土緑化推進協議会で、新会長が表彰されました。

スピーチ(1) 日本自動車産業とアメリカ自動車資本との

提携の歴史 杉本隆治君

日本の自動車の歴史は、関東大震災で鉄道と路面電車を失った東京市が復興輸送の為にフォードT型車の大量緊急発注を行つたことに始まる。その一部は改装されて円太郎バスとなり市民の大切な足となつた。やがて日本フォード社、日本GM社が設立され、アメリカ自動車資本が日本を完全支配するかに見えた。フォードもGMも輸出の半分はノックダウン方式である。これは輸出先で組立てることとで、関税も安く車が株安になる。

けている。労務者の移動、ショッピング・センターの競争、新工業技法等も関連問題の解決の鍵として研究の対象となる。

4. 就職相談 西独のStuttgartの二つのR.C.では、卒業を控えた学生を集め、就職先をきめる相談相手となつている。各種の職業を代表するロータリアンが個々の学生と面談する形式をとつている。

5. 兄弟クラブ(Matched Club)との連携 兄弟クラブと連携して職業奉仕の実例報告を交換し合う。スコットランドのオバン(Oban)のR.C.で、会員が直面している問題を兄弟クラブに報告している例がある。

6. 厳密な検討 職業奉仕の実例は大いに参考に成り役立つものである。然し、根本的に大切なことは、個々の会員が「ロータリーを自分の職場で活用すること」である。此の義務を如何にして果すことが出来るかについて「奉仕こそわがつとめ」(Service Is My Business)という冊子が、実例を挙げて説明している。

各会員がその人の職業で、ロータリアンでない人とロータリーを分かち合うように助力するにはどんな方法でやるか?、之を念頭においていれば職業奉仕に踏切れたと言えよう。

※ ファイアサイド・ミーティングの報告 遠藤 副会長

10月14日、炉辺会合の一スタイルとして麻雀大会を行い、会員間の親睦に大いに役立ちました。四つのテストに照らしてみると、1. 会員は競技中誠に真実であり、自分の手を偽らなかつた。2. 公平かどうかについては、残念乍ら守られず、成沢会員が最多の賞品を獲得しました。3. 好意と友情は大いに深めました。4. みんなの為になつたかどうかについては、森会員が最高に尽しました。今後も色々会合が行われると思いますが、皆さん大いに出席され親睦を深めるより希望します。

※ 出席率(前回分)

会員数30名 当日出席26名 他欠出席なし (出席率86.67%)

※ 次回の卓話予定者

神原金一君 杉本隆治君 飯田貢一君

次回例会日 11月4日

通算オ22号

1964~65-11-4

函館北ロータリークラブ

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

第20回例会

- ※ 司 会 新 会 長
- ※ 斉 唱 " 君ガ代 " 手に手つないで
- ※ ゲ ス ト 俣野純夫君 (遠藤会員) 市川芳夫君 (青柳会員)
- ※ ビジター 阿 部 恵三男 君 (森R.C.)
川 村 久 雄 君 他6名 (函館R.C.)
大 村 宝 一 君 他9名 (函館東R.C.)

※ 会 長 挨拶

1. R.I.本部から10月19日附で加盟の承認が参りました。これに関連した各種の文書も来ております。10月23日附の加盟祝状、又R.I.会長、R.I.事務総長からの激励文等も来しました。
2. 北海道電力主催の電力懇談会に出席して来ました。
3. 10月31日新造船松前丸の函館ドックよりの引渡祝賀式が同船で開催され参列しました。立派な出来栄で、12月中旬就航の由です。
4. 11月3日に杉崎合同容器社長が、社会事業の功績によつて勲三等に叙勲されたので、11月18日の例会に御出席を願い、祝辞を言上したいと考えております。
同氏は以前に入会をおすすめしたこともあり、此の機会にお話伺いたくお誘いしたわけです。ほぼ了解を得ております。

※ 幹 事 報 告

1. 函館厚生院高丘寮落成に際しての当クラブよりの寄附に対し礼状が来しました。
2. R.I.から加盟承認のコピーが到着しました。
3. チャーターメンバー2名の変更通知がきました。
4. 北村会員が、交換された愛知県犬山R.C.のパーナーを持参されました。
5. パーナーをお持ち帰りでない方は、是非御持参下さい。
6. 例会後理事会を開きます。

満州事変に入り、兵器でもある自動車がすべてアメリカ依存であることに不満を持った軍部は「自動車製造事業法」を制定し、トヨタ、日産、いすゞが誕生した。同時に外車の輸入関税を大巾に上げた。然し法律で自動車が出来るものではなく、やがて大東亜戦争に突入し、アメリカとの縁は切れた。

終戦後空襲により潰滅的打撃を受けた日本の自動車メーカーも、占領軍司令部より民需トラック生産工場の許可を得て生産再開にこぎつけ、同時にアメリカとの技術提携が話題となつて来た。然し今度はアメリカ側の喝発的事情即ち朝鮮事変の為日本への投資を断念せざるを得なくなり、その間に日本の自動車業界は飛躍的發展を遂げたのである。さて今所に「自由化」が問題となつているが、事ここに至つては恐らくアメリカの進出は無いものと思われる。今後の日本の自動車業界はアメリカ資本を排除し否対決して進まねばならぬ運命にある。

※ スピーチ (2) 木綿わたについて 飯田貢一君

快眠は人間の健康の三要素の一つであり、その条件の一つは寝具である。最近マットレス、合成綿の登場で木綿わたが忘れられたかに思われるが然らず、この20年間に約4倍の増加をみている。木綿わたは日本の住宅事情、生活様式にマッチし、衛生的で而も価格が安く、寝具に最適なものとして愛用されている。寝具の条件として、寝返りを打つに適当な硬さ、適当な吸湿性、適当な重さ、又よく肌に合うしなやかさが必要であり、木綿わたは之等の条件をほぼ満足させるものである。アクリル(ボンネル、Xラン)、エステル(テトロン)、塩化ビニール(テピロン)、アセテート、ビニロン、ナイロン等は夫々欠点があり、木綿わたに及ばないと信ずる。木綿わたの唯一の欠点と言えば、合成綿と比較して重過ぎることであるが、我社に於ては既に軽い木綿わたつまり樹脂加工綿の製造に成功している。今後木綿わたが息の永いベストセラーズを続けてゆく為には、時代の要求にマッチした軽くて扱い易い而も長もちする品質を工夫してゆく事が必要であり、これが我々の課題である。

※ 出 席 率 (前回分)

会員数30名 当日出席19名 他ク出席6名 計25名 (83.33%)

※ 次回の卓話予定者 神原金一君 成田勇司君 大田秀雄君

次回例会日 11月11日